

〔資料編〕

資料 1-1 調査・活動レポート

調査・活動レポートは、視察団が視察をするにあたっての着眼点等をあらかじめまとめたもので、視察中は全員が常に携帯し、本レポートを活用しました。

資料 1-2 品川区の地図（英語版）

視察団がヒアリングやインタビュー等をした際に、品川区をPRするために配布した地図。

資料 1-3 「わ！しながわ」のうちわ・ピンバッジ

視察団がヒアリングやインタビュー等をした際に、お礼として相手に配布した「わ！しながわ」デザインのうちわ・ピンバッジ。

資料 2 「品川区議会リビ°ック・パ°ラリ°ック推進特別委員会における要望一覧」特別委員会が出された視察要望項目に対し、調査結果をまとめたものです。

リオデジャネイロ オリンピック視察

調査・活動レポート

《期間：H28.8.5～8.11》

氏名	
----	--

リオデジャネイロオリンピック視察に向けて

主な調査・活動内容

- (1) 区内開催予定3競技関係
- (2) 事前キャンプ誘致活動
- (3) ボランティア・地元のこどもたちの協力・関わり方
- (4) 文化プログラム・イベント内容
- (5) 多言語対応（案内サイン、デジタルサイネージ、ピクトグラム 等）
- (6) バリアフリー等まちづくりの状況

☆競技会場周辺・文化施設・観光地における調査の視点

- 公共交通機関の最寄駅からの導線
- トイレ
- ごみ箱
- 案内サイン類
- 多言語対応・w i f i 対応
- 観光案内・パンフレット（地元へ呼び込む方策）
- 地元商店街・飲食店・みやげ物店
- 歓迎・おもてなしの雰囲気が感じられるか
- シティドレッシングの状況
- バリアフリー対応
- セキュリティ対策
- 喫煙所整備状況
- その他特徴的なこと
- 文化イベント（内容・主催・盛り上がり状況）

☆競技会場内における調査の視点

- 会場に関わっている人のチェック
（大会ボランティアの活動状況・人数 ユニフォームで認識）
- 会場内での地元の子どもの関わり
- 多言語対応
- バリアフリー対応
- その他特徴的なこと
- 来場者へのインタビュー

☆大会ボランティアへのヒアリング内容

☆競技会場周辺ボランティアへのインタビュー内容

- 採用決定から、本番までに準備したこと
- 実際に携わった感想・困っている点
- 心がけていること
- 大会終了後、この経験をどう生かしたいか
- 2020大会ボランティアへのアドバイス
- どこから来たか（リオ市内外等）

☆ブラジル視覚障がい者スポーツ連盟へのヒアリング内容

- パラ大会までの競技普及事業の具体的内容
- リオ市との連携事業
- リオ市における、ブラインドサッカーの認知状況
- ブラジル国内における、ブラインドサッカーの認知状況
- 応援体制
- ボランティアの体制
- パラリンピックの準備状況確認
- 騒音についての対策等
- 競技会場として特に留意すること（要望等）
- 大会における地元のこどもの関わり

☆リオ市（文化担当）・組織委員会（教育担当）へのヒアリング内容

- 文化・教育
（文化プログラムの取組み）
（組織委員会における教育プログラム（Transfoma）について）

日時	平成28年8月 日	～	場所
メンバー			
レポート			



It's a gateway to Tokyo, the capital of Japan. Shinagawa has a variety of attractions.

Shinagawa roughly consists of two areas: a seaside area facing Tokyo Bay and a residential area on the heights. Historically, the city flourished as a post town in the Edo period and as an industrial area in the Meiji period. The city has many historic sites, such as temples and shell mounds, and is enriched by waterfront spaces and leafy parks. Bustling areas with high-rise buildings and leisure facilities, as well as quiet areas that have schools, libraries, and residences—you will discover the different charms of the city, depending on where you visit. Today, Shinagawa is welcoming visitors from all over the world as a gateway to the capital of Japan that offers convenient access from air, land, and sea.



「わ！しながわ」
の
うちわとバッジ



項目	要望事項	調査結果概要
区内開催予定3競技関係	1 来場者の観戦前後の動向とその情報取得	来場者について、観戦後は、「食事に行く」という声が多かった。紙の地図を持っている人は見かけなかった。あらかじめ調べているようで、迷っているような人は見かけなかった。
	2 駅・宿泊所(ホテル)から、競技場までのアクセスの状況	ビーチバレーボール競技場 最寄駅から1.2キロの会場まで、案内板が、所要所の曲がり角と主要なところに立っていた。 ホッケー競技場 最寄駅から一本道であり、案内板ではなく、軍隊が、配置されていた。
	3 ホッケー、ビーチバレーの観戦者数と会場周辺の特徴的な設備	観戦者数 ビーチバレーボール会場 約7千人(ブラジル選手が出場したときは、ほぼ満員) ホッケー会場 約5百人(空席が目立った) 特徴的な設備 ビーチバレーボール会場 周辺がビーチ、常設店舗多数あり ホッケー会場 周辺が軍の施設
	4 競技会場担当者からの意見や課題の聴取	ボランティアについて、宿泊費等自己負担のため、辞退者が多かった。ボランティアをうまくまわすための事前講習が大変であった。大会時における、ボランティアシフト構成(不在時間をつくらない)に気を配っているとの話を聴取した。
	5 出場選手の要望や意見の聴取	
	6 次期開催地としての東京への期待の声	日本人は、きちんとしており、事前の段取りなどが計画的になされると思われるため、期待している。 ブラジル人は、文句を言われてから始め、うまく終わればいいという考え方であり、すべてが一夜漬けという感じである。 (大会・都市ボランティアからの聞き取り)
	7 多くの観光客をさばく工夫と実際のトラブル、それに対する対処法	会場内における、誘導柵の設置、インフォメーションコーナーの設置、ボランティアの配置。特にトラブルは見かけなかった。
事前キャンプ誘致活動	8 「東京・品川」の知名度アップのための直接PR	観客やボランティアにインタビューした際は、必ず、「わ」のバッチやうちわを提供し、品川区から来た理由をしっかりと伝え、東京の品川区をアピールした。
	9 他都市(日本を含む)の動き、配布物の状況	ジャパンハウスにおいて、都道府県のPR冊子をおいていた。国によっては、「ホスピタリティハウス」を設け、各国のPRを実施していた。
	10 事前キャンプの誘致活動	「British House」や、各国のNOCが集まるという「Pacific House」において事前キャンプ誘致活動を実施し、PR冊子を置かせていただいた。 ブラジル視覚障がい者スポーツ連盟において、ブラインドサッカーの事前キャンプの誘致をおこなった。
ボランティア・地元の子どもたちとの協力・関わり方	11 語学力(種別)、服装と目印	ボランティアのうち、緑のポロシャツ着用者が、会場周辺に多数おり、客対応となっているが、英語が話せるボランティアは、名札に、表記あり。ほとんどの人がポルトガル語しか話せなかった。
	12 気運盛り上げの装飾(フラッグ・ポスター・飾りつけ等)	空港からの主要な道路にはフラッグがあった。会場周辺には、看板と、一部デジタルサイネージが見受けられた。会場から少し離れたところでの装飾は何もなかった。
	13 ボランティアの言語対応力、人数、雰囲気	社交的で、親切。ピンバッチがとても好きであった。 ビーチバレーボール会場 約200人(コパカバーナ海岸全体 約1,000人) ホッケー会場 約100人(市の臨時職員・市のOB等もいた)
	14 子どもたちの言語対応力、人数、表情等の雰囲気	こどもは、浜辺や、まちなかのサッカー競技場で遊んでいた。こどもたちと、接する機会がなかった。
	15 ボランティア育成、現状、翻訳や通訳の育成	大会ボランティアを5万人採用 トレーニング3日(オリンピック全体・職務について・自分の担当競技会場について) 言語については、オンライントレーニングのしくみあり。 ビーチバレー会場のボランティアは、リオ市民が72%、他の州20%、外国人8% 大半のボランティアは、英語が話せなかった。
	16 子供や地元民、関わり方(教育現場)	教育プログラム「Transforma」を実施。
	17 パラリンピック機運醸成の取り組み(学校、地域、民間)	会場内または駅は、バリアフリー等整っているが、一歩外に出ると、障害者にとって、優しいとはいえない状況にある。 (ブラジル視覚障がい者スポーツ連盟からの聞き取り)

項目		要望事項	調査結果概要	
文化プログラム・イベント内容	18	有料・無料のプログラム(数・内容・種別)	確認できたイベントは、全て無料のプログラムであった。	
	19	テーマのあり方、傾向(自国の発信or国際交流)	昨年8月から、リオ市において、「カルチャーパスポート」を100万枚発行。400の個人や企業のプロジェクトを認定。イベントに参加するとスタンプをもらえ、施設の入場割引などの特典となった。リオ市が主体ではなく、企業や個人に主体性を持たせた。 組織委員会の文化プログラム「Celebra」はうまく機能しなかったとのこと。	
	20	演目、鑑賞方法、内容、プロ・アマのスキルの違い、有料、無料?	ステージが設けられ、観覧料金無料の、演奏等行われていた。ブラジルハウスも無料であった。プロ・アマは不明。	
	21	障がい者の文化芸術活動の有無、内容	見受けられなかった。	
	22	文化プログラムやイベント内容について(教育現場)会場なども。	教育現場においては、教育プログラムの中で実施。	
	23	伝統・文化の取り組み	特筆すべきことは、確認できなかった。	
	多言語対応 (案内デザイン、デジタルサイネージ、ピクトグラム等)	24	方式、対応語数、デザインの統一性(見易さ・分かりやすさ)	ポルトガル語・英語、統一性はあり、一部絵文字が使われたところは、わかり易かった。
25		何カ国語対応なのか?	2ヶ国語対応。	
26		案内等の多言語化や表示の方法、統一されているのか	会場周辺については、統一されていた。	
バリアフリー等まちづくりの状況	27	駅を基点とした行動範囲内での特徴	リオの街は、古い街並みであるというのが一言でいう特徴である。道路も石畳の歩道や自然石の縁石で作られ歴史を感じた。しかし、道路のバリアフリー対応などはできていない。	
	28	駅のバリアフリー、特にエレベーターの設置状況	鉄道駅のバリアフリーは、しっかりと対応できていた。点字ブロックやスロープ等の設置。エレベーターにおいても、各ホームに必ず設置されている。また、地下鉄駅では、改札を出てから地上までをエレベーターやエスカレーターで行き来できた。	
	29	バリアフリーの取り組み(視点や手法、考え方)	基本的には、日本での考え方や手法と同じと思われるが、統一された規格などで設置されているようには見えなかった。	
	30	各会場へのアクセス	地下鉄などの鉄道、BRT(バス高速輸送システム 2連結バス)、VLT(ライトレール 路面電車)等であり、オリパラに合わせ新設、延伸した路線などがあつた。	
	31	観覧競技会場周辺のまちづくり(駅周辺、アクセス)	駅からの競技会場までの距離は、徒歩で行ける範囲であり、サインも適所に付いており迷わずに行けた。競技会場周辺や最寄りの駅周辺は、競技観覧者が多かったが、歩道幅が広いため、混雑による歩きにくさはなかった。	
	32	歩道や路面の状況	歩道は、自然石のモザイク舗装をよく見かけたが、アスファルトほど平滑ではなく、ハイヒールなどでは歩きづらいとのこと。また歩道は損傷箇所が目につくなど管理状況は良くない。車道は、比較的新しい舗装で凹凸は感じられなかった。	
その他	おもてなし環境	33	各店舗の価格設定(オリンピック価格)	ショッピングセンターやスーパー等での金額は、平常価格。
		34	来訪者と地元のコミュニケーション	治安の関係で、自由に外出せず。会った人たちは、皆親切であった。また、公園では若者が「ポケモンGO」で、楽しそうに遊んでいた。
		35	オリンピック時のお土産として何が好まれるか	ピンバッジ、うちわ。
		36	飲食店の状況、価格、露店等の出店状況	飲食店の価格は、平常価格。ビーチバレーボール会場周辺は、事前に整理が行われたとのこと減少していたが、露店は、通り沿いに多く見られた。
		37	住人たちの受け入れ状況、積極性	住人については、接触できなかった。
		38	会場への導線で観客を迎える“おもてなし”の工夫があるか	案内看板、デジタルサイネージ、案内所等の設置。
		39	期間中の観光客向けの個人ビジネスなどを可能な範囲で見つけてほしい。	ビーチバレーボール会場周辺における、露天商。また会場付近の商店では、地元PRのお土産品(ボールペン、タオル、絵葉書、国旗等)を販売していた。
		40	まちの美化(禁煙、ルール、灰皿、マナーの周知)また、ごみの分別	市の清掃職員が、会場周辺には多数配置。ごみ箱は、分別はされていない。ごみ箱と灰皿が一体化していた。歩きたばこは、禁止はされていないが、ほとんど見受けられなかった。
		41	外国人・外国語のまちの受け入れ態勢	自然体であった。
		42	Wi-Fi環境	競技会場内は、フリーWi-fi環境となっていなかった。ホテルでは、フリーWi-fi環境であった。
	43	免税店について	見当たらなかった。	
	44	会場周辺の物販について	ビーチバレーボール会場周辺:公式グッズ売り場以外は、39で記載のとおり。 ホッケー会場周辺:全くなし	
	防犯・防災体制	45	警備状況	軍隊・郡警察・州警察・市警察が総動員され、ものものしい雰囲気であった。会場周辺は、銃を持った人が等間隔に配備されていた。
		46	災害時の対応	特に表記等はなかったが、45で記載のとおりである。
47		熱中症対策(暑さ対策)	ビーチバレーボール会場周辺では、ミスト機能のある、看板が1箇所設置されていた。	
48		感染症対策	競技会場ではなかったが、リオ市の入口には、入場者が利用できる消毒薬を置いていた。	
環境配慮	49	環境に配慮した取り組み(自然エネルギー、再生可能エネルギーの導入状況)	見受けられなかった。	

リオデジャネイロオリンピック視察報告書

平成28年（2016年）10月発行

発行 品川区文化スポーツ振興部オリンピック・パラリンピック準備課
〒140-8715 東京都品川区広町2-1-36
電話 03（5742）9109（直通）

本文は、古紙を配合した紙を使用しています。